

COI東北拠点 若手活動とは

イノベーションの担い手は、我々若手である

そのために必要な、世界トップクラスの研究を行い、その成果を社会に還元し、同時に自分のキャリアパスを確立していくための取り組みを進めている。

自らのキャリアパスに必要なネットワークと環境を自ら構築する

JSTで進めている若手人材の活躍促進活動に積極的に参加し、議論・提言・自主的な若手企画など、活動の推進に中心的な寄与を果たしている。本学研究者がCOI2021会議にて代表でプレゼンした「COI20.0制度」の提案は、任期付き特任の大学研究者がよい研究成果を上げ、キャリアを積むために必要不可欠な制度であった。これがすぐにCOIで実施されることになり、自分たちの活動で必要な環境を作ってゆく「COI若手活動」がさらに盛り上がるきっかけとなっている。COI東北拠点ではPL・RLも積極的に若手支援を行っている。

これまでの拠点内活動

H25.10 COI東北拠点のプロジェクト採択

H26.5 若手研究会立ち上げ 研究者企画

発起人：井上久美（環境科学）・築地謙治（医学系）
当初メンバー：工学系17名、医学系11名、医工学・情報系9名

H25.6-H27.5 若手研究会（6回）+懇親会 研究者企画

内容：COI内で行われている各分野の研究に関する情報交換

H26.10-H28.2 対話型ワークショップ（3回） URA企画

対象：企業も含めたCOI東北関係者（主に若手）
第三回は公開。『健康な人が自分の健康管理にPHRを活用するには？』

H27年度 対話型ワークショップ（3回） URA企画

対象：企業も含めたCOI東北関係者（主に若手）
『10年後の望辺家のヘルスケア生活ストーリーを思い描く』

H28年度 若手ワークショップ（3回） RL補佐・URA企画

対象：COI東北の若手研究者（学生も含む）
『COI 東北の研究の先にある社会の姿をもう一度考え、COI 東北のこれからの取り組みを明らかにする』

H29年度 研究会（2回）・若手研究提案

研究会対象：COI外研究者も含めた若手
PL/RLへの若手からの提案



第一回COI若手研究者アイデアソン合宿in仙台

全国COI拠点の「突出した若手研究者」を多数集めた一泊二日のアイデア創発合宿が、COI東北拠点の吉田慎哉特任准教授の呼びかけにより、2017年8月5-6日、東北大学レジリエント社会構築イノベーションセンターおよび仙台秋保温泉岩沼屋で開催された。これまで、COI2021会議やCOI構造化チーム若手部会など、いわゆる中央主導の若手会議は度々開催されてきたが、拠点の若手研究者が発起人となり、自発的な取り組みとしての企画はこれまでになく、今回、東北で初めて立ち上がった。COI研究のプレイヤーである若手自身の手により、自分たちが活躍するための「共創によるイノベーション創出の場」を作ろうという今回の試みは、11月の第二回の名古屋合宿に引き継がれ、12月の第3回COI2021会議でのブラシアップされた若手からの提案に作った。



その他イベント参加・ピッチ・情報発信

H29.8.31-9.1 JSTフェア2017 若手ファンド採択者ポスター掲示・プレゼンテーション

H29.11.4-5 第2回若手合宿in名古屋参加

H29.11.5 医療機器×グローバルシンポジウム ベンチャーピッチ登壇（吉田特任准教授）

H30.1.31 アカデミックトーク（甲斐特任助教）

その他多数



JST若手人材活躍促進活動への参加

◆COI2021参加

第1回会議：H28.1.29-30 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）

東北大より研究者2名とURA4名が参加

1日目：各拠点から発表 2日目：アンカンファレンス

吉田特任准教授が登壇（研究内容と拠点紹介）

『日常的な健康管理のための飲み込み型センサプラットフォームの研究開発』

第2回会議：H29.03.18-20 北海道大学フード&メディカルイノベーション国際拠点（札幌市）

東北大より研究者6名、URA2名、早稲田大より研究者1名が参加

開催拠点、実行委員ともに手挙げ式で、東北大からは3名が実行委員として開催に携わった。第1回のCOIの課題の提示、共有、解決案の検討に加え、第2回はCOI終了後の核になり得る人材の育成、研究テーマの発掘、事業化アイデアの創出を目指した会議だった最終日のプレゼンは大変盛り上がり、特に吉田特任准教授が発表を行った「COI若手研究者はエフォートの20%を必ず自由に使う」提案は大きな共感を呼び、小宮山委員長からも「ぜひ実現しましょう」とコメントがあり、文科省も実現に向けた検討を行うこととなった



北大拠点HPより引用

第1回ワークショップ：H29.06.23 日立製作所中央研究所（国分寺）

東北大より研究者2名、URA2名が参加

講演とアンカンファレンス形式による討論

第2回ワークショップ：H29.9.15 日立製作所本社会議室（秋葉原）

東北大拠点より研究者4名、URA2名、企業3名、サテライトより研究者2名が参加
うち7名が発表

第3回会議に向けたピッチのブラシアップ

第3回会議：H29.11.22 日本科学未来館（東京都）

（拠点からのピッチ登壇）

吉田特任准教授（東北大）『勝利をもたらすための飲む深部体温計』 ※受賞

王竹卿（東北学院大）『随時尿からの健康診断 - 新型バイオセンサ』

伊藤隆彦産学官連携研究員（東北大）『水の安全を守るための検査法の開発』

甲斐特任助教（東北大）『異分野融合による皮膚がん診断・治療パッチの創製』

白澤特任講師（東北大URA）『COI発！健診アイドルと行く世界一周健康の船旅』



◆COI STREAM構造化チーム「若手部会」への出席と積極的な提言

COI STREAM構造化チーム「若手部会」は、第一回COI2021会議での議論を元にH28年10月に立ち上がった。若手部会リーダーは構造化チームメンバーの江渡浩一郎氏（産業技術総合研究所イノベーション推進本部イノベーション推進企画室企画主幹）。

第1回：H28.11.18 東北大研究者3名とURA1名が出席

第2回：H28.12.9 東北大研究者3名、URA1名、
早稲田大学研究者1名、学生1名が出席

○アンカンファレンス形式でCOIの若手が直面しているテーマを議論

- ・COI プログラムにおける若手の活躍促進に関わる活動について
- ・キャリアパス支援につながる評価軸の構築について
- ・COI からのベンチャー設立について
- ・拠点の横断的活動として取り組みたいテーマについて
- ・拠点間連携研究の研究開発提案について



◆COI 若手連携研究ファンドへの提案と多数の採択

拠点横断型の研究開発連携を活性化することを目的に、若手研究者が研究企画から主体となって2拠点以上が連携して行う研究を支援する制度「COI若手連携研究ファンド」が立ち上がり、H28.12に提案募集が開始された。本拠点からは下記の提案を行い、FS1件を含めて、すべてが支援対象となった。面接審査まで進んだ12の提案のうち、4件が東北大学の関連提案だった。

- ・『MEMS技術と3Dファブ技術の融合によって実現する超小型胃酸電池駆動飲み込みセンサ』
吉田慎哉（東北大）・仰木裕嗣（慶応義塾大）
- ・『細胞外ATPを指標とする皮膚がん診断・薬剤投与パッチの開発』
甲斐洋行（東北大）・大黒耕（東京大）
- ・『トイレの溜まり水測定を目指したセンサーの開発および水中に溶け出す糞便成分と健康状態との関係解明』
山崎聖司（大阪大）・井上久美（東北大）
- ・『認知症予防・早期発見を目指したゲノム・多層オミックス情報を活用したバイオマーカー探索』
勝岡史城（東北大）・山崎博未（弘前大）・多田羅洋太（弘前大） ※FS

H30年度は、さらに拠点外連携を含め、全部で9件の応募を行った。

まとめと今後の展望

本拠点では若手研究者およびURAがCOIプロジェクト推進に重要な役割を果たしている。これまでの活動を通じて、拠点内外で若手のプレゼンスを示すことができ、よい研究、よい企画運営に直接結びついている。今後もCOI研究活動を通じて、本拠点から将来の社会を見据えた広い視野からの研究を若手中心に発信してゆきたい。